



TECHNISCHE UNIVERSITÄT GRAZ
ERZHERZOG - JOHANN - UNIVERSITÄT
Rechbauerstraße 12, A-8010 Graz

姓	BAUER
名	Franz
生年月日	Dezember 11, 1968
学生番号またはコード	F 086 87 11704
資格の名称 (原語で)	Doktor der technischen Wissenschaften (Dr.techn.) 工学の博士号 (工学博士)
学位授与機関名 (原語で)	Technische Universität Graz (グラーツ工業総合大学)
学習機関名 (原語で)	Technisch-Naturwissenschaftliche Fakultät (工学・自然科学部)
授業/試験の言語	German
資格のレベル	Doctoral study (UNESCO ISCED Code 6) (訳注)
入学条件	Completed diploma study in the same or equivalent discipline
資格に関わる主要学習分野	Technical Physics
学習形態	Full time study
標準学習期間	2 years (4 semesters)
コースの要件	Federal Engineering Education Act (Bundesgesetz über technische Studienrichtungen) (工学の学習に関する連邦法)
部門、コース、モジュール、あるいは学習ユニット	Curriculum agreed upon with the supervisor of the dissertation
個人の成績	See transcript of records enclosed (Grade average: 1.00)
成績評価	1 = Sehr gut (非常によい) = Excellent/very good A 2 = Gut (よい) = Good B 3 = Befriedigend (満足できる) = Satisfactory C 4 = Genügend (何とか間に合う) = Sufficient D/E 5 = Nicht genügend (不合格) = Fail FX/F
総合判定 (原語で)	Mit Auszeichnung bestanden (優秀な成績で合格)
継続する学習課程	None
関連する職業上のステータス	Access to academic career (Habilitation) (大学教授への道、大学教授資格)
追加情報	Dissertation in "Electroluminescence Devices based on blue light - emitting Conjugated Materials for Polychromic Flat Panel Displays" (博士論文名: 英語表記)
さらなる情報ソース	Registrar's office: Tel.+43 316 873/6128 Fax:+43 316 873-6125 TU Graz on INTERNET: http://www.tu-graz.ac.at NARIC AUSTRIA: http://www.bmbwk.gv.at/naric

日付

サイン

公印

訳注: 基本的に英語で記載されるが、(原語で)とある項目は、当該言語(この表ではドイツ語)で表記される。ドイツ語部分は括弧内に訳を入れた。

UNESCO ISCED Code 6は、ユネスコ国際標準教育分類の大学形態の第3段階の学位(博士課程)に相当する。

原注: 日付、サイン、公印は省略。

[出所] <http://www.bmbwk.gv.at/medienpool/7759/diploma-supplement_muster_en.pdf>

欧州の博士学位におけるディプロマ・サプリメントの例(グラーツ工業総合大学)。(木戸裕(2005)ヨーロッパの高等教育改革ーボローニャプロセスを中心にしてー。レファレンス)

(6) TA : 教育能力の醸成と検証

我が国における、大学院生の TA (Teaching Assistant) は、教員の授業準備・資料作成等の補助、実験授業の補助、採点業務の補助など、比較的限定的な教育業務を遂行する。大学院生の業務負担は少ないものの、経済的支援の観点からみると、不十分な状況である。大学院生にとっては、将来教員になった折に発揮する教育能力の向上に資する貴重な機会であり、TA 活動の質量ともにより一層の充実が望まれる。

一方、米国においては TA 活動の対価としての経済的支援のみならず、大学院教育全体においても、TA が重要な機能を果たしている。一定の学業成績を挙げないと TA になることができず、また、TA として、宿題レポートの採点や一部授業を行うなど、実質的に教育業務の一部を担っている。そして、TA として優れた能力・実績をあげた者は、表彰されるなど、TA としての質保証も行われている。こうした TA システムは、大学院生が将来大学教員になる場合の、教育能力の醸成や教員としての教育適性判断に役立っているのみならず、様々な職種に就いた場合において、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮する上での、有効な教育活動の一つにもなっている。

また、RA (Research Assistant) についても、大学院生に対する経済的支援とともに、研究者としてプロジェクトを支える上での訓練など、その重要性に鑑み、今後の博士(後期)課程教育における役割を検討していくことが重要であるものと思われる。

(7) 博士（後期）課程学生からみた大学院の教育プロセス

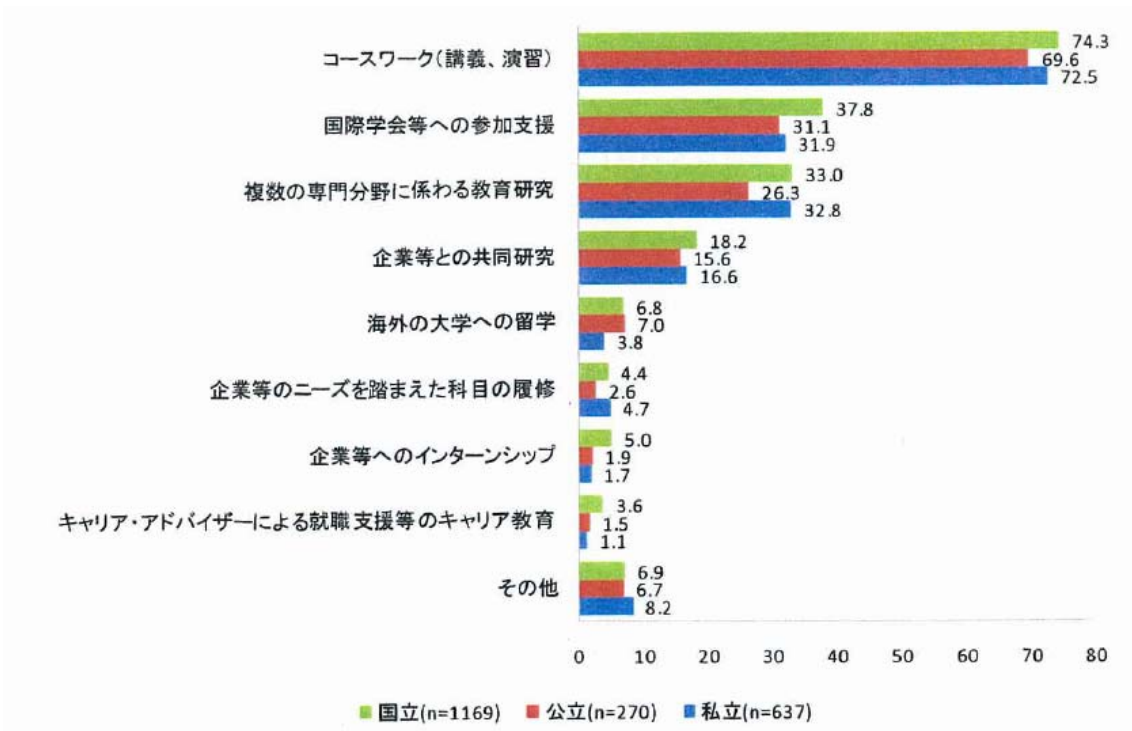
全国の大学院博士（後期）課程学生 4384 人（人文、社会、理学、工学、農学、保健、その他）を対象にした進路に関する意識調査²⁴によると、博士（後期）課程において自らが経験した教育研究上の取組では、多くの学生がコースワーク（講義、演習）、国際学会等への参加支援、複数の専門分野に係る教育研究等を挙げている。一方で、企業のニーズを踏まえた科目の履修や、企業へのインターンシップ、キャリア・アドバイザーによる就職支援等のキャリア教育を挙げた者は、きわめて少ない。

博士（後期）課程修了時に身につけていると見込まれる知識・技能・態度については、専門分野の理論的知識、専門分野の方法論や分析方法、専門分野の研究能力、専門分野の先端的知識、プレゼンテーション能力等が高い割合を示しており、自らの専門分野については、説明能力も含め自信を持っている様子が見える。

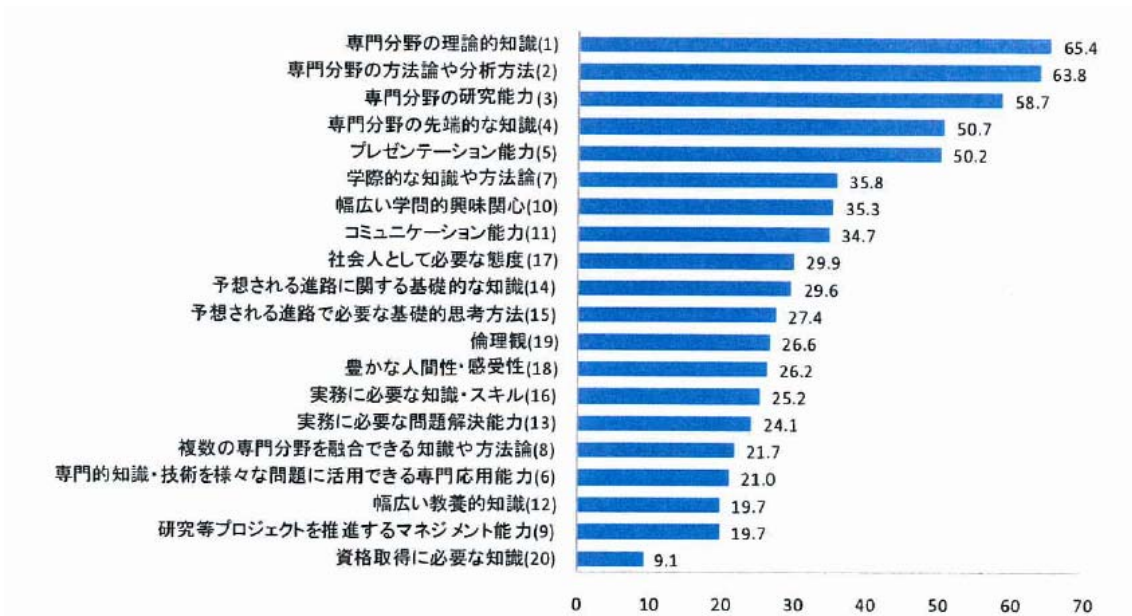
一方、身につけたい能力と、身につけていると見込まれる能力との差分に注目すると、専門知識を応用する能力、分野横断的知識、研究プロジェクトのマネジメント能力、学際性・幅広い教養等について差分が大きく、身につけたいと感じていながら、現実の教育研究活動では身につかないと思っている現実が、浮かび上がってくる。本人が身につけたいと感じていながらも不十分な上記能力こそ産業界が期待している能力でもあり、この差を埋める教育こそが、博士取得者の企業就職、その後の幅広い分野での活躍を促す鍵とも言える。

大学院博士課程修了後の希望職種としては、研究開発職が顕著に多いが、進路の検討に当り大学に期待することとしては、博士（後期）課程向け企業説明会、進路ガイダンスの実施、インターンシップの実施等が挙げられており、学生への民間企業に関する適切な情報や、インターンシップなどの機会が提供されれば、企業への就職希望者が、より多くなることが期待される。

²⁴ 財団法人未来工学研究所：平成 20 年度先導的の大学改革推進委託事業「博士課程（後期）の学生、修了者等の進路に関する意識等についての実態調査」（2009 年）



博士（後期）課程で経験した教育研究上の取組
 (未来工学研究所 (2009))



博士（後期）課程修了時に身につけていると見込まれる知識・技能・能力
 (未来工学研究所 (2009))